

バスケットボール				競技戦評用紙																					
大会名	平成18年度 群馬県中学校総合体育大会バスケットボール大会																								
試合名	平成18年 8月 1日	会場	桐生市民体育館																						
結果	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:30%;"></td> <td style="width:20%; text-align:center;">18 ——— 15</td> <td style="width:30%;"></td> <td style="width:20%; text-align:center;">15</td> <td style="width:10%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">相生中</td> <td style="text-align:center;">16 ——— 15</td> <td style="text-align:center;">芳賀中</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">(推薦) 64</td> <td style="text-align:center;">19 ——— 16</td> <td style="text-align:center;">60 (前橋・勢多)</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align:center;">11 ——— 14</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>						18 ——— 15		15		相生中	16 ——— 15	芳賀中			(推薦) 64	19 ——— 16	60 (前橋・勢多)				11 ——— 14			
	18 ——— 15		15																						
相生中	16 ——— 15	芳賀中																							
(推薦) 64	19 ——— 16	60 (前橋・勢多)																							
	11 ——— 14																								
審判	主審 結城啓之	副審 佐々木英男	オフィシャル	桐生北中																					
	戦	評	文	責	高橋 健司																				
<p>相生中ハーフコートマンツーマン、芳賀中1 - 2 - 1 - 1ゾーンプレスでスタート。両チームとも激しいディフェンスから、お互い得点を許さず、開始4分で3 - 2。その後も両チームとも一步も譲らず、一進一退の攻防が続く。芳賀は 横山のポストアップから1対1を中心に得点をするのに対して相生は 蛭沼の連続3ポイントなどで応戦し、第1ピリオド18対15で相生リード。</p> <p>第2ピリオドに入っても両チーム共にディフェンスの手を緩めない。相生はマンツーマンディフェンスで激しくプレッシャーをかけるのに対して、芳賀は3 - 2ゾーンで応戦する。相生は、 高田のドライブなどから得点するのに対して、芳賀は 角田の3ポイント、 難波のミドルシュートで応戦する。第2ピリオド34対30で終了。</p> <p>第3ピリオドに入ると、相生 吉田が爆発する。連続シュートに加えて、バスケットカウントを連発。このピリオドだけで、12得点の活躍を見せる。芳賀は、 のドライブ、バスケットカウントなどで応戦するが、次第に点差は開き53対46で終了。</p> <p>運命を賭けた第4ピリオド、両チームとも の3ポイントでスタート。芳賀はじりじりと追い上げを見せ、残り5分で56対53と3点差まで詰め寄る。相生は、 のドライブから川合のあわせで連続得点。また、オールコートのプレスで5秒バイオレーションを奪う。一進一退の攻防が続くなか、両チームともディフェンスの手を緩めず、芳賀が24秒バイオレーションをとるも、相生もすぐさま24秒で奪い返す。そして残り1分を切ったところで相生 がバスケットカウント、勝利を決定づける速攻を決める。最終的に相生が64対60で接戦を制し、関東大会出場権および決勝進出を決めた。</p>																									